

はるかぜ書房の新刊
2023年12月上旬発売

「ほどほどの医療」でいこう 日本の医療の持続可能性を考える

北口勝司（きたぐち しょうじ）

1962年生まれ。京都大学医学部卒業。循環器内科医として、天理よろづ相談所病院、医仁会武田病院グループなどを経て、2003年9月より2023年3月まで枚方公済病院の循環器科部長として、循環器急性期医療と内科救急医療に尽力した。

木村洋平（きむら ようへい）

1983年生まれ。東京大学 教養学部 基礎科学科卒業。和光大学大学院修了。地方公務員を経て独立。作家、フリーランス編集者、メディア「エシカルSTORY」代表。主著は『遊戯哲学博物誌』。



日本の医療のサステナビリティ（持続可能性）は危機的です。日本では数十年の間、医療費が増大し続けており、このままでは今ある医療体制を持続できません。社会全体を見渡せば、少子高齢化や財政危機があり、医療と介護の「2025年問題」もあります。すぐにでも、医療制度の改革が必要な状況です。具体的には、高齢者への手術など、高度で高額な治療をぐっと減らすこと、また、イギリスの「家庭医」制度を導入したり、最低限の医療を確保する「セーフティネット病院」を創設したり、保険診療の認可を見直したりすることを提案します。さらに、「一日でも生きながらえればいい」と考えがちな死生観を考え直すことが重要になります。

このままでは日本の医療は崩壊する！

日々ぶつかる理想と現実のギャップ、最前線で活躍する医師が提案する解決策！——中川義久 滋賀医科大学 教授

今、「足るを知る」医療が求められています。

——太田凡 京都府立医科大学 教授

はるかぜ書房

発行発売：はるかぜ書房株式会社

〒248-0027 神奈川県鎌倉市笛田6丁目15番19号

ご注文は右記へ

(株) JRC

FAX 03-3294-2177

TEL 03-5283-2230

ご注文 申込書	注文 数	はるかぜ書房株式会社	
		「ほどほどの医療」でいこう 日本の医療の持続可能性を考える 北口勝司,木村洋平著 四六判・縦・並製・272頁 定価1800円（税別） ISBN: 978-4-909818-39-3 C0047 ¥1800E	

※返品条件付き注文扱い